

次期静止気象衛星の整備・運用における民間活力の活用方策

	製 造	運 用	
		衛星の管制(制御)	気象観測(撮影)
ひまわり1号、2号	宇宙開発事業団	宇宙開発事業団	気象庁
ひまわり3号～5号	宇宙開発事業団、 気象庁	宇宙開発事業団	気象庁
ひまわり6号、7号	航空局、 気象庁	航空局	気象庁
次期静止気象衛星 (ひまわり8号～)	気象庁	民間事業者	気象庁 (ただし、観測カメラの コントロールは民間)

次期静止気象衛星の整備方式について

【調達条件】

- ・国の気象衛星は「非研究開発衛星の調達手続き」により国際調達
- ・国の方針として、打上げは国産のH-IIAロケットを使用

【経費面】

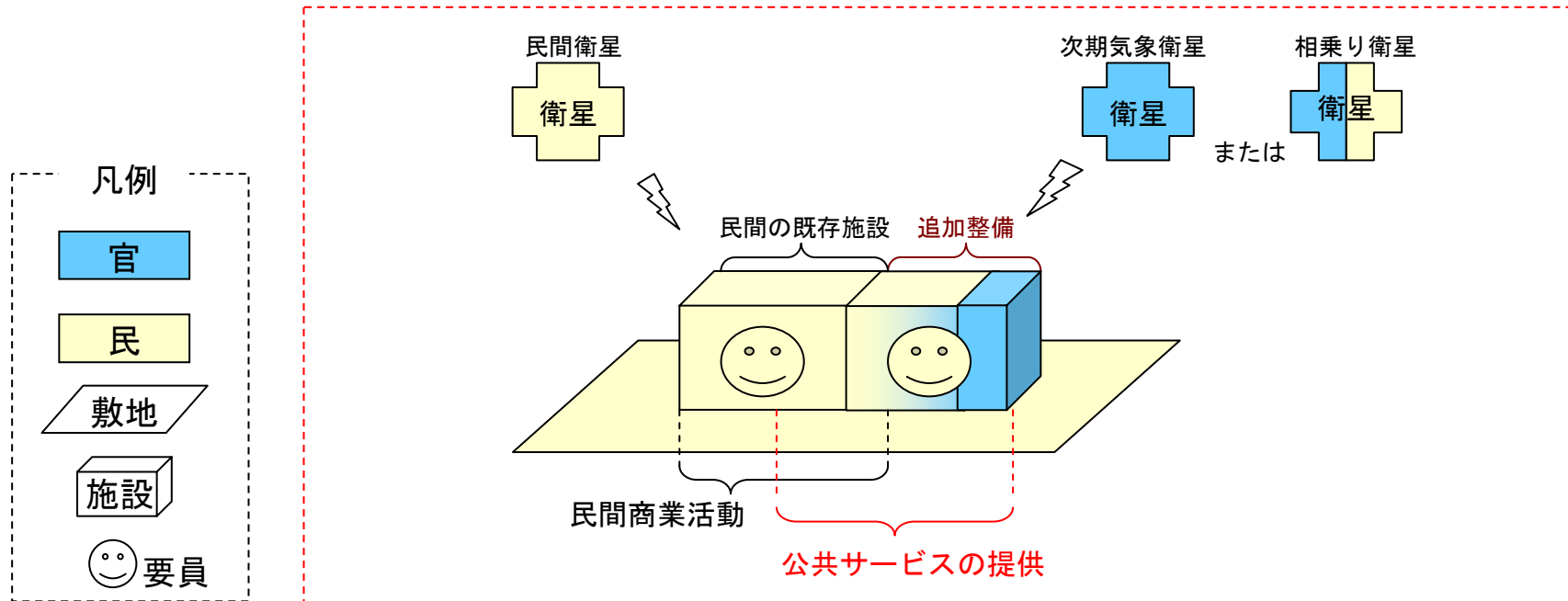
- ・衛星の製造及び打上げに係る経費には、国直轄とPFI方式との差はなく、PFI方式は金利負担が大
- ・一方、地上設備の整備及び運用は、民間のノウハウを有効に活用できるPFI方式は経費節減効果も大

業務 整備方式	基本機能 の決定	衛星製作	地上設備 の整備	打上げ	追跡管制	地上設備 の管理	運用	観測デー タの処理
国直轄方 式	気象庁							
	気象庁	衛星メーカー	設備整備業者 (一部衛星メーカー)	打上げ事業者	衛星メーカー	気象庁		気象庁
運用民間 委託方式	気象庁							
	気象庁	衛星メーカー	民間事業者 (一部衛星メーカー)	打上げ事業者	衛星メーカー	民間事業者	民間事業者	気象庁
一部(運用) PFI方式	気象庁		民間事業者 (一部気象庁)	気象庁		民間事業者		気象庁
	気象庁	衛星メーカー	民間事業者 (一部衛星メーカー)	打上げ事業者	衛星メーカー	民間事業者	民間事業者	気象庁
完全PFI 方式	気象庁		民間事業者					気象庁
	気象庁	衛星メーカー	民間事業者 (一部衛星メーカー)	打上げ事業者	衛星メーカー	民間事業者		気象庁

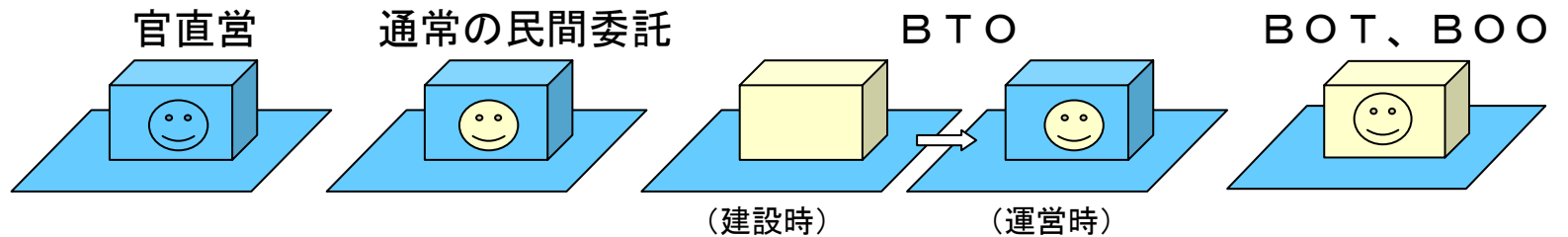
(各方式の上段：事業主体（発注者）、下段：実施者（業務受託者）

次期静止気象衛星の整備・運用のパターン（例）

（一部PFI方式の場合）



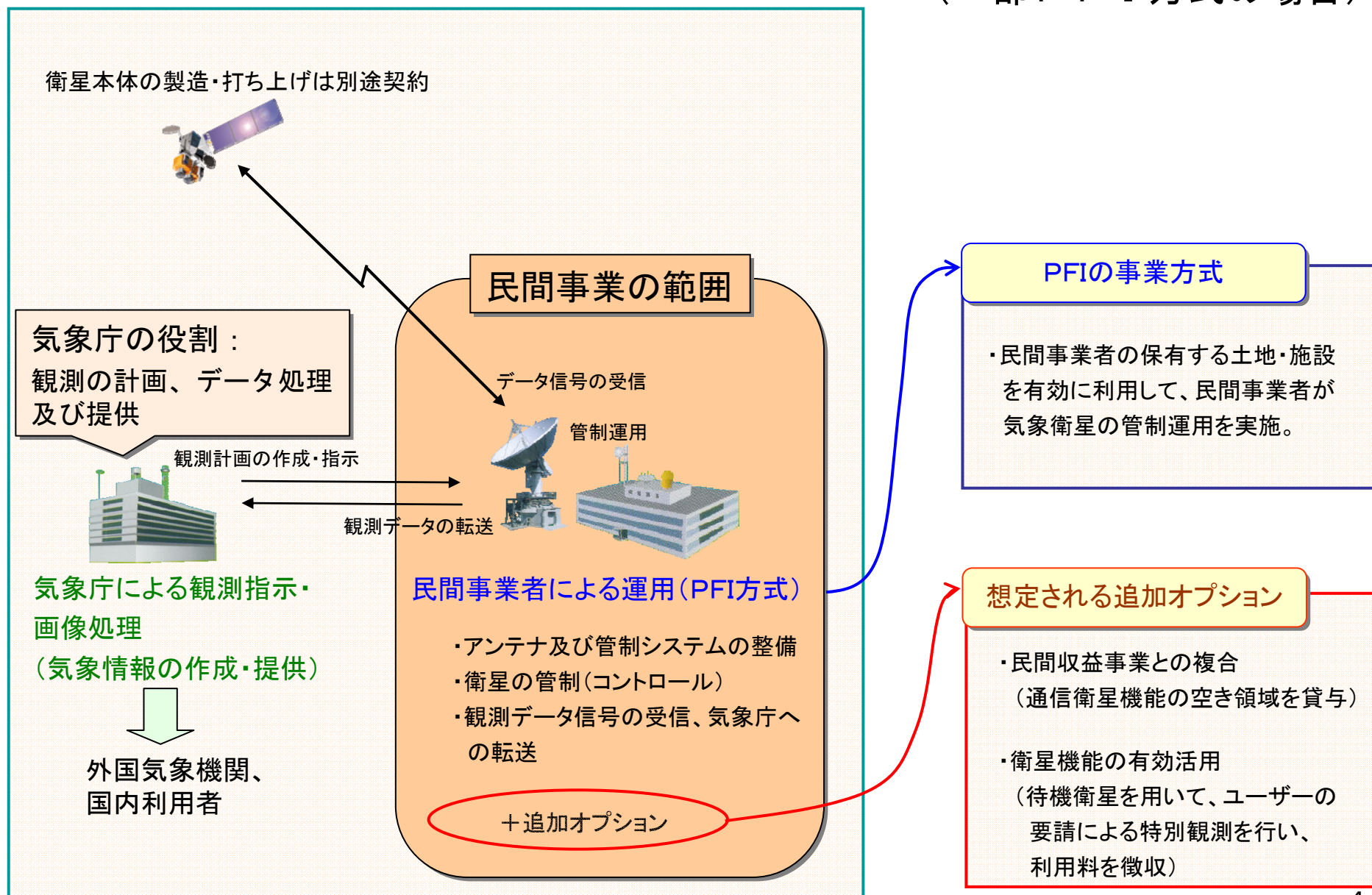
【参 考】



注： BTO : Build - Transfer - Operate
 BOT : Build - Operate - Transfer
 BOO : Build - Own - Operate

次期気象衛星における民間活力の活用イメージ(例)

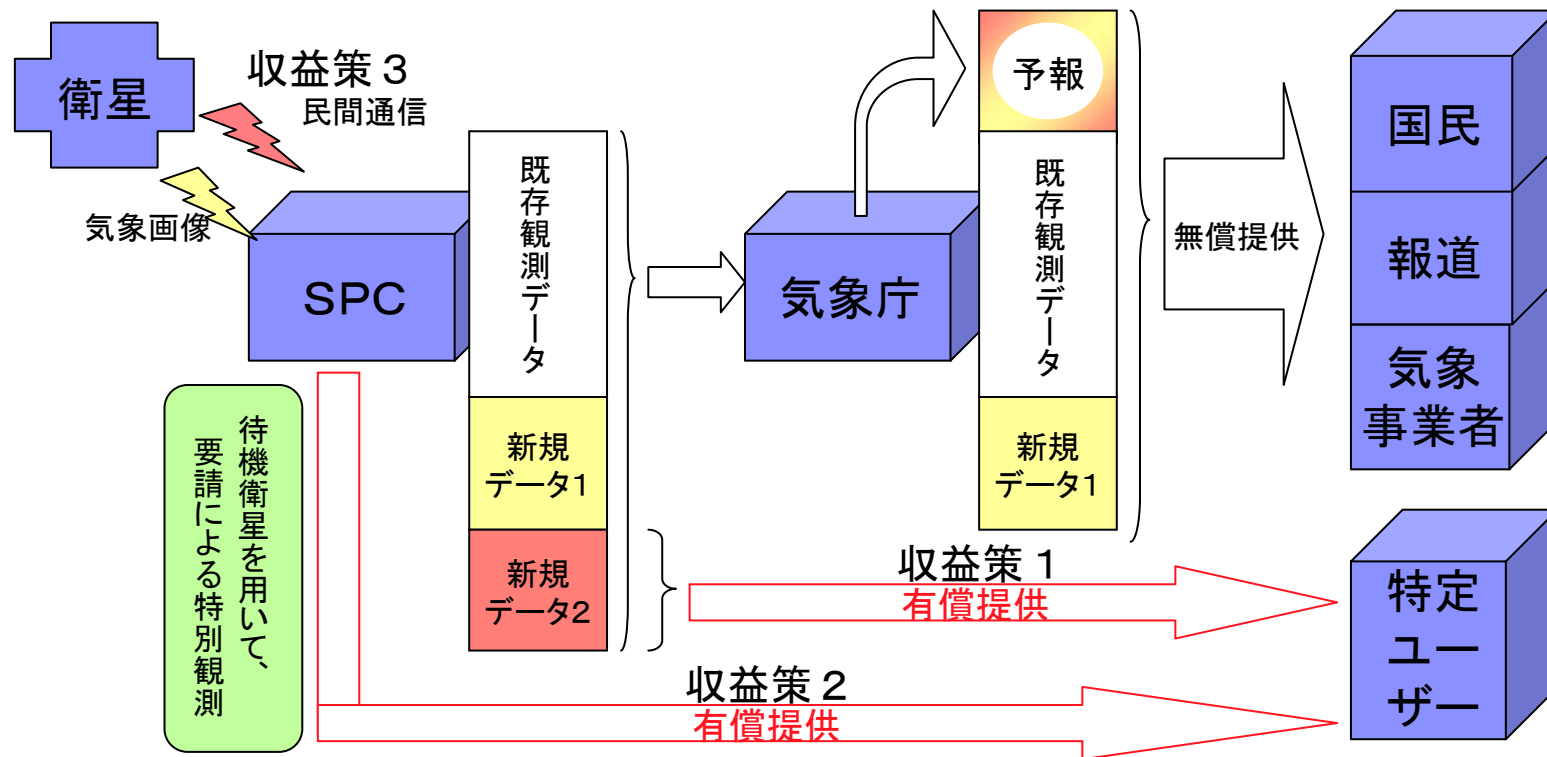
(一部PFI方式の場合)



追加オプションによる収益策のアイデア

次期衛星の追加機能を活用した収益策をPFI事業の一環として実施、収益の一部を運用経費から減額し、国の負担を軽減することを検討。

- ・収益策1・・・次期衛星ではじめて得られる新規データのうち、報道機関等が用いない情報部分をSPCが有償で販売。
- ・収益策2・・・待機中の衛星（主として本運用終了後）において、特定ユーザーの要請により特別に希望の地球撮影を行うサービスをSPCが有償で提供。
- ・収益策3・・・気象衛星の通信機能をうち空き領域を民間通信事業に貸与。



【前回の懇談会のポイント】

- ・衛星データは防災に結びつくものであり、有料化すべきではない
- ・天気予報等を組み合わせた付加価値によって商品化され、気象衛星画像のみではビジネスにならず、有償にすると利用されない
また、他国の地球観測衛星でも相当部分を政府機関が買い上げることにより、販売事業として成立